いずみ
発行所
福井県大野郡
和泉村公民館
印刷所　松浦印刷所

選挙期日決定

九月二十三日は農業委員会委員選挙 村長・村会議員補欠選挙は十月三十日

村選挙管理委員会は八月二十二日役場に於て開催し、今秋執行する三ツの選挙期日、事務日程を次のとおり決定しました。

選挙期日

農業委員会委員選挙　九月廿三日
村議会議員補欠選挙　十月三十日
村長選挙　十月三十日

事務日程のうち主なるもの
村長選挙事務日程は来月号に登載いたします

昭和三十五年九月廿三日
執行和泉村農業委員会委員選挙事務日程

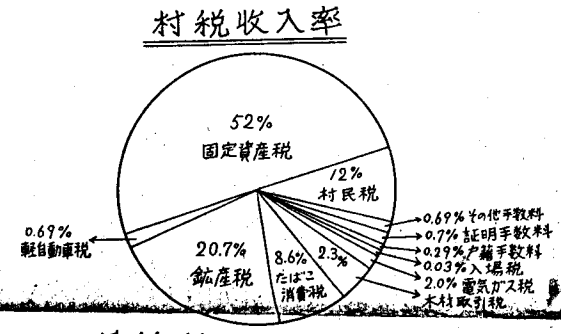
九月一六日金(七)選挙期日の告示
立候補届受付開始　選挙立会人届受付開始　選挙事務所設置届受付開始　不在者投票受付開始
九月一八日日(五)　投票立会人の選任通知　選挙会の日時および場所の告示　選挙立会人のくじを行う日時および場所の告示
九月一九日月(四)立候補届最終日
九月二〇日火(三)　選挙立会人届最終日
九月二二日木(一)　不在者投票最終日
九月二三日金　投票　選挙会

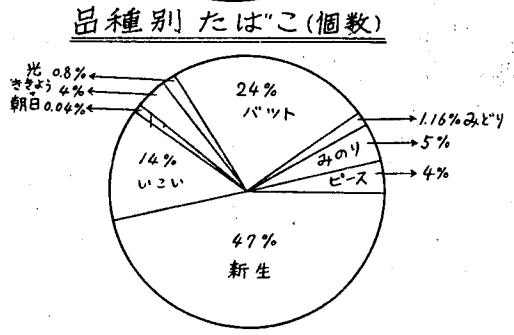
税のしらべ

昭和三十四年度中に、皆さんから村税として納めていただいた税金は一千五百三十七万三千円ですこの額の村民の一世帯当り平均額が一万五千一百七十円、一人当り二千八百五十円となります。この額の内には大規模の償却資産税や鉱産税の様に大口納税者もふくまれていますので、それ〳〵各一般家庭あてはめて考えるのは無理かとも存じます。村税を税別に分けたのが次に掲げてあるグラフです。

村税の五二%が固定資産税ですが、この内の約六五%は大口償却資産税で、電力会社並に中竜鉱業所等より納税されています。

下のグラフは昨年中村内で消費した煙草の品種別数量を表したものです。一箇の煙草でも村内の煙草店で御買い下さい。





九月強調目標

台風シーズンへの心構え

台風シーズンを迎えました昨年および今年の経験を生かして人まかせにしないで、台風のない中に、予備の手当をしましょう。平常からたがいに連絡し合い、力を協せ誡め合つて、みんなの力で災害を最少限度にくいとめ、気の毒な方を、できるだけ少くしましょう。なお家庭における台風対策は、その場になつてからは間にあわないから、今の中に家族全員で細かくたてましょう。

台風再び当村襲う

八月十一、十二、十三の三日間にわたつて台風十一号、十二号は昨年に続き再び当村に集中豪雨をもたらし、村内各地に大被害を蒙つた。

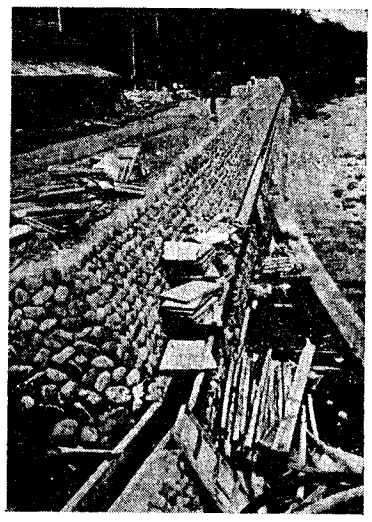
この日の降雨量は五三九ミリに達し、一名の尊い人命をのみ、国道の板橋、仮工事は全部流失、決潰したのを始め、農業用施設、農地の流失、堤防の決壊等、復旧途上にあつた当村は、再び昨年同様に交通は杜絶し、物資の輸送は全く不能となり、陸の孤島と化した昨年の台風以来、村民は不朽の災害復旧に努力を注いでいた矢先であつたが、国道仮工事等重要カ所の完全復旧の出来ていなかつたものの被害が特に甚大であつたことは、今後の災害復旧が急務中の急務であることを決定づけた。

災害被害は概ね次のとおり。

八月十五日現在

罹災者総数	一人	
内訳	死者一人	
	合計	一人
住家の被害		一三戸
床下浸水		一三戸
非住家の被害		一三戸
田畑の被害		二戸
田冠水		一二・七町
〃流失		四・三町
〃埋没		五・〇町
計		二二・〇町
畑冠水		〇・三町
〃埋没		〇・一町
計		〇・四町
道路決壊		三〇カ所
橋梁流失		一〇カ所
堤防決壊		三八カ所
農業用施設流失		七四カ所
林道関係		三〇カ所
炭窯全壊		三〇基
炭窯半壊		二四基
炭窯浸水		二六基
木炭流失		一、五五〇俵
木炭原木流失		四五〇立方米
木材流失		一、九五〇立方米

目下調査中に付推定によるものもあり。



昨年九月二十六日の夜、百年目に一度あるかないかと言われる豪雨によつて、悲惨な災害を蒙りましてから一周年を迎えようとしております。

あの日を回想致しますと、唯悪夢の如く、今年の去る八月十三日の十二号台風の再度の災害も、伊勢湾台風の連続である様な感じで、あの九月二十六日以来ズツト和泉村は災害の痛みが続いております。

今年の十二号台風による村の罹災額は査定を受けておりませんので、確実な事は申されませんが、一周年に近い今日までに村事業で三十四災の復旧に注ぎ込んだ金額は大略次のとおりであります

一、公共土木事業　二二、五四二(単位千円)
二、農地、農業用施設　三五、六八六　(〃)
三、林道　六、〇二四　(〃)
四、学校施設　二、三三三　(〃)

伊勢湾台風 罹災一周年に際して

村長　杉本又助

年には五割を、そして三年目に二割を、所謂三、五、二の比率は七ヵ年を以つて災害復旧は完了するのが国策でないか？然らば二年目の年度に当る今年の年度末には三プラス五—八割完了すべきだ！と

〔写真説明〕上は復旧工事の完成した彫路地籍の国道、下は昨年の伊勢湾台風で決壊した同箇所。

こう思われる方もあると思いますが、所謂三、五、二の比率とは緊急を要するものに就てであつて、今年、和泉村へ県が予定されてあるのは四十九パーセントにしか当らない状況であり、本村が目論む七十パーセントには、幾多の努力と、国、県の緊要度認定の御理解が要件でありますので、村民各位には内情御了察の上、一段の御協力賜りますよう御願い致したいのであります。

なお又今度の十一、十二号台風は、手当をした痕跡を再び荒此と致しましたので、目下その被害を調査しており、近く査定を受ける事になりますが、福井市が戦災と震災の二回の火災の跡に、近代都市のモデルとして立ち上つたのを手本に、ひるまず復旧に立ち向い二回に渉る災害に誰も代る者なく吾々一人一人が自分の業を荷負して立ち上る所にのみ、無倦の無縁の慈悲が照されると思います。唯単なる、道や橋や田甫の、有為転変だけの事でなく、是を離れて吾々自分というものがないと自覚するからであり、それ程に今の和泉村にとつて災害復旧は切実な問題であると考えておる次第であります。

和泉村商工会発足

従来和泉村には任意の商工団体があつたが、活潑な活動体制でなかつたので、村内に於て和泉村商工会を結成し、商工業の振興によつて村民経済の福利増進を図ろうとの機運が高まりつつあつた。

幸に国に於ては六月十日商工会法が立法化したのを契機として、和泉村商工会結成の運びが急激に進み、去る七月三十一日午前十時から、朝日小学校に於て県商工会連合会桜川氏等の来賓を迎え、会員二七〇名をもつて和泉村商工会が結成された。

商工会法は中小企業、小規模事業者に対する経済政策を重点としたもので、店舗改装資金、事業資金等の低利資金の融資、商工簿記青色申告、物品の販路の拡充、低利物価の仕入等いろ〳〵の面に於て指導育成してくれる事となつて居ります。

商工会案内

商工会では会を健全に育成するために指導員の駐在、補助金交付等が全業者に及ぶ様に会員の加入を希望して居ります。村内に六カ月以上の実績をもつた業者であれば加入出来る事となつて居りますから九月末日までに加入の手続きをして下さい。九月以降になりますと定款の定めによつて一万円の加入金が必要となります。

役員氏名(会長、副会長のみ)

会長	池田澄剛
副会長	宮本慶治
〃	辻善久

災害を防ぐための注意

村消防団は昨年の伊勢湾台風、今年の十二号台風による災害を顧り見て、如何にしたら災害を事前に防止出来るか、その対策を協議し今後村民の皆様に絶対守つていただきたい事、注意をしていただきたい事について次の六項目を定めた。

一、避難命令があつたら速かに避難する事
一、増水時における「ニゴリガキ」は絶対にせぬ事
一、降雨中は、子供を川辺に絶対に近寄らせぬ事
一、増水時は橋台附近に近寄らぬ事
一、消防団の指示に協力していただきたい
一、突発的に事故発生の場合、速かに消防団員に連絡下さい。

二百十日のいわれ

こんなに台風が度々やつてくると、二百十日以外の日も油断はできぬが、二百十日は昔から一年中の最大の厄日とされた。丁度稲の開花期で早稲も晩種も開花期をはずす様にして工夫している。

昔は大厄がこの日の天候を宮中に報告した。二百十日が我が国の暦にあらわれたのは今から二百七十年前である。当時の有名な暦学者安井春梅が、この日船をやとつて沖へつりに出ようとした所、老船頭が「今日は立春から二百十日にあたるが、いままで五十年間たためしてみたところ、二百十日と二百二十日目にはきつと暴風雨がきている。今日はつりはおやめなさい」といつた所、午前は晴れていたが、午後は荒れだした。安井はつりをやめて帰り、いろいろ研究して一つのデーターを作り、幕府に進言してこの日を暦の上に書きこむ様になつたといわれている

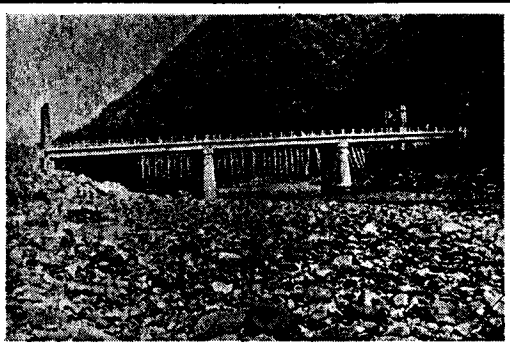
県土木委員会、県土木部長等
一行現地視察

県議会、室土木委員長及び土木委員と地元出身山崎、川崎、藤堂三県会議員、県田所土木部長、道路課長、大野土木出張所長等一行十九名は、台風十二号による再度災害地当村へ来村、現地を視察した後、村議会と懇談会を行つた。

土木委員長の挨拶及び災害見舞の言葉のあと、杉本村長より今次台風により被害状況の説明ののち質議に入つた。

村長　九頭竜川にかゝる永久橋につき、本年中に早急完成する様陳情しているが、予算化していると言うのにいまだに工事にかゝらないのはどう言う訳か

土木部長　災害復旧費は三、五、二の割合で予算化しているが、



国の方から未だ来ていない。昨年分と合せて約六割に達した程度で、県としても建設省へ盛んに陳情しているが残念である今次の災害では応急処置の工事は早急に支出することを決定した。

村長　建設省予算は三十五年分が全々ないと言うことか、全然来ていないのか。

土木部長　第一次第二次はもらつている。第三次がないと言うことである。

村長　第一次第二次の予算が来ているのに、和泉村地区の橋が一つも工事にかゝらないのはどう言う訳か、辺地故に軽視し、水没の問題にからませて復旧を後廻しにするのでないか。

土木部長　県としては決してそんなことはない。現に彫路橋もあの様に永久橋にし、大谷橋等もより以上の設計をして架ける様になつている。工事がおくれているのは誠に申訳ない。

大野出張所長　流失橋が一橋もかつていない事については、大きい橋になるので国の認可も必要であるので設計書は全部提出してあり、おそくなつたが全部同時位に工事が出来ると思う。

K議員　県側のお気持だけは何回もきいている。吾々は見舞の気持よりも実際の工事がしてほしい。お気持は実績の上で現わしてほしい

大野出張所長　現在出張所にも技術員を増員して設計等に一生懸命かゝつている。

村長　工事のおくれる原因として私がきいている所では、提出した書類が出張所―道路課―出張所―財務部―総務部と二カ月もかゝるらしいが、職員の中に抽出に放任しているのではないかそんなことのないよう注意してほしい。七橋共今月中に工事を出すよう配慮願いたい。

土木委員長　私が敦賀、若狭、大野出張所を巡回した折、提出された書類が実際に二カ月余りかゝる事を認めたので、県会に於て関係部課長に質問したいと考えていた。復旧費(国から)については三十四、五年で八割出るはずのところまだ六割しか出ていない。

M議員　昨年の台風から仮橋が完成したのが五十日余り、本年は更に台風が来ると思われるが、今迄の状態だと今年の仮橋は冬になつてしまう。村民の生産販売はストップされ大きな社会問題である。万年橋を架けるために一年余りも生産を阻害されるよりも、十年橋でもよいから生産輸送の出来る橋を希んでいる

K議員　全じ災害県である岐阜県ではすでに復旧が完成に近い。

福井県と比べると格段の差だ、和泉村は白鳥町に近い故に比較して考える。和泉村を特別な扱いをしているのでないかと非常に不審と不満を持つている。

道路課長　今次災害の仮橋については一カ月以内に完成する予定である。

土木出張所長　資材その他で地元の協力を願いたい。

I議員　唯今の仮橋について九月頃に此の様な台風が予想されるがそれの対策如何。

土木出張所長　今の仮橋については設計を変えて橋全部が連結して流失するのを防ぎ、スパン毎にはなれる様な設計をしたい

I議員　昨年の仮橋に地元資材が暴騰して設計がおくれた如く言われるが、村民にとつては山林資源は重要であり愛着心をもつている。出来るだけ伐ることをさけて生活を安定させている。又桁に使う大木も数少い。その辺も考慮に入れてもらいたい。

K議員　仮橋は一カ月より早くならないものか、又工事を出したつもりでも工事にかゝらない事もある。監督を厳重にせられたい。

M議員　私は今次災害に岐阜県に居合せた。岐阜―白鳥間は大野街道以上の災害であつたが、十七日には小型が通り十九日には大型が通る様になつた。そのやり方は県の技術者が各現場で陣頭指揮して建設業者を協力させてスピード復旧をしている。福井県では復旧の熱意が足りないように思う。建設業者も掌握してほしい。

村長　セメント等建設資材の運搬しなければならない大谷まで大型が通るのは何時頃か、何時仕事にかゝるか。

土木部長　仕事はすでに渡してあ

る。

Y議員　土木関係で和泉村は何%完成しているか。

土木部長　予算があるが完成していない状態である(三十五年分)

Y議員　県議会は和泉村の状態をよく調べて見よ

村長　仮橋の架設をすると昨年の如く本工事をおくらすおそれがあるから、本工事の方は八月中に入札するよう手配して頂きたい。

M議員　大谷橋は何時完成するか

土木部長　来年の三月三十一日完成計画だが十一月末までに仕上げたいと考えている。

M議員　冬期間も作業の出来る設計、及び業者を選定して頂きたい。

谷戸橋完成

昭和三十三年着工の谷戸橋も総工事費一、七七五万円で、上部PSKK、下部大拓工業KKにて完成された。橋の長さ六一・五米、橋の巾六、二米、荷重一四瓲、下部工重力式橋台二基、橋脚二基上部工PSポストテンションビーエス式丁桁五本並列三連。

待望の東部中学屋体完成

本村多年の懸案であつた上地区中学校問題が実質的に解決してから丁度一年になるが、今回は待望の雨天体操場が完成した。

この雨天体操場は延約九十坪、本村始めての鉄骨製のモダンなもので、通風採光美観堅牢など、すべての点からこの近辺には珍らしいすばらしく見事なできばえで、生徒達の喜びはまた一しおである

(請負は白鳥町高砂組)

国民年金の支払

国民年金は九月五日から郵便局で五、六、七、八月分を支払いいたします。受給者は役場で先にお渡ししてある保管証と手帳を引替になつた後、印鑑、手帳をもつて局で受け取つて下さい。

国民年金説明会

拠出制国民年金の説明会を県の係員が来て次のとおり行いますから多数御出席下さい。

九月十五日午後一時から
朝日支所に於て
九月十六日午前九時から
役場に於て

伊勢灣台風に思う

一年前九月二十六日災害の模様を、一番被害を受けられた朝日部落の色々な立場の方々に想い出の記として述べていただき、今後への参考としたい。只思う事は半原、大谷、朝日の堤防が、今日建造しつゝある様なものが一年前あつたとしたら、あの被害はなかつたであろうと思われてならない。災害復旧の早期完成こそ村人の切なる願いである。

(一)　今年も亦台風の季節がやつてきた。それにつけても思い出されるのは悲惨な一年前の水禍である。其の日十五号台風で風の強い中瀬の部落では、窓に板を打付ける音が悲壮に鳴り響いていた。夕やみ迫る頃はさしもの風も弱まり誰もがほつとした気もちで火の気の無い中で夕食をしたためた。なお不安ながらも床についた者もあつた。

雨は風にたたきつけられて物凄い雨鳴りである。その雨鳴りの中から「堤防が危ない！」、「皆んな避難せよ！」の声にハツとして外に出た時は家の裏側は既に水であつた。雨は愈々はげしい。風も尚強い。三輪車を引出し居残る人達を乗せて避難すべく元映画館の前まで濁流の中をむりやり来たが、其の時はも早や手遅れであることを知つた。

ライトに照らされた濁流は見る見る増えて来る。材木は妖怪の群の如く流れてくる。川鳴り、風鳴り、雨鳴りの中、避難者の物悲しい叫び声が、とぎれとぎれにほやけた懐中電灯の光の中からもれてくる。それも自転車屋の附近で立往生している風である。車は之れ以上進めない。引返して籠城すべく車を廻した。それでも恐怖におびえた人達は運転台をたたいて「戻るな戻るな」と叫ぶ者もあつたしかししばらくで帰る事も不能になつた。増水で車が浮ぶ。流木が先に屋根につかまつて電気をふりふり流れて行つた人達の事を話し合つたりした。

其の時又助けを呼ぶ声で外に出た処、田中さんの家から連絡に出た中山さんが流され、立木につかまつているので、縄は無しほんとうに苦労した。

(二)　大水害を蒙つた九月二十六日、早一周年を迎えるに当り、想出も新に尊い生命を落された方々の面影がまざ〳〵と偲ばれてならない。只々瞑福を祈るのみである。

当時の想出として強く胸を打つものは、夜明けと共に目に映じた惨状は、只茫然自失、途方に暮れた時、近郷部落の方々の見舞の言葉、激励の辞は実に有難く、地獄いの仏に会つた如く、水害を思う度心両面の準備を怠つてはならないと特に当時部落の責任者として深く痛感する次第である。

明治天皇御製

むつびあふ世ぞたのしかりける
ゴンゴンとかちつかるのである。

(三)　裏手の硝子戸を破つて濁流が浸入して来た時には

つた事、苦しかつた事は語り伝えられるが、助けていただいてうれしかつた話は割合少ない。救援を受けるのが当然の権利の様な言動も皆無とは言えない。恥かしい事だ。

今日一周年を回顧するに当り、全を保つ一点に集中されていた。生れて五十年、最初の貴重な体験の一つだつたあの伊勢湾台風に伴う洪水の悲劇、就中二十二の知人の生命を奪つた事実は永久に傷手として残るであろう。

「経験は教訓である」後からみればもつと合理的に対処しえたであろうが、その瞬間の心の状態は全く場に威圧された所謂あがつている行動でしかなかつた。その夜ラジオの警報も主として防風に役立つたのみで、大雨とはいえ洪水への関心は薄かつたことは否定出来ない。予測出来ないことの不安は災害の場合に於て著しく、取分け状況判断不能に就て火事などとは比べものにならぬ。従つて各家庭各人各様な行動に陥入り、被害をより大ならしめる。

特にこの日は警告も警報もなく戸迷つた感が深い。我々は地形其他についても平素いくつかの想定の下に対処方法を考えておくべきである。更に暗夜の不安を軽くする為に、懐中電灯最少二個は準備しておかねばならない。出来たら井はコンクリートで固め、汚水の浸入を防いでおくことは、単に災害予防のみならず極めて大切なことと思う。

今夏の洪水に昨年の経験が如何に役立つていたかはいう迄もないが一つ一つの経験を生かして平素心の訓練を怠らないよう望みたい「我々は営て川底だつた自宅の一室に寝ている」と苦笑することがあるが、この事実は尊い事である最後に堅固な而も安全な堤防の構築の一日も早からんことを待望している。

人のうごき

【出　生】

後野　巣守　利彦　俊一弐男
野尻　宮原　純子　智　長女
下山　嶋　義則　喜市五男
中竜　松井　幸子　幸雄長女
米俵　池尾　義浩　重太長男
川合　加藤　民江　一美長女
箱ケ瀬　美濃島周生　明　弐男
下山　中村　利治　憲治長男
朝日　中村　竜司　邦典弐男

【婚　姻】

○下半原　中森　七郎
東京都太田区　清水　明美
○米俵　池尾　由男
大谷　若山　幸代
○朝日　挺屋美代志
大野市中野　牧野　文子
○名古屋市南区　辻本　泰
伊月　高崎スミエ
○下山　西　喜代美
下山　林　文子
○大野市猪島　森永美登志
下山　宇野　瑞子
○角野前坂　平瀬　忠栄
岐阜県郡上郡八幡町勝川　あや
○名古屋市瑞穂区　桜井　長治
久沢　周戸　すみ
○後野　三島　脩平
福井市足羽町　大久保フジエ
○中竜　山口　輝男
〃　宮腰　清子

【死　亡】

大谷　三島　国人　五三歳
伊勢　三島　さま　六八歳
板倉　立蔵　とき　八一歳
下山　中村　助治　六七歳
箱ケ瀬　永瀬　英男　一七歳
上半原　長谷川はる　八〇歳